

菊川町公民館がめざす姿

ここに集う人たちが
交流してつながり 学び合い
地域の中で自分には
何ができるのかを考え
人の役に立つことで
喜びとやりがい
幸福感や生きがいを
創り出す
そんな「公民館」を
めざしたい



早友会 竹脇 益三

コロナ禍も2年目、すべて中止よりもできる限りの感染対策を行い
公民館活動を再開したい。安心して参加していただきたい。

そんな思いから、菊川町公民館は、消毒、検温、体調管理シートなどの基本的事項を徹底し、
定員の人数を減らすなど工夫しながら行事を行い、安心してご参加いただきました。

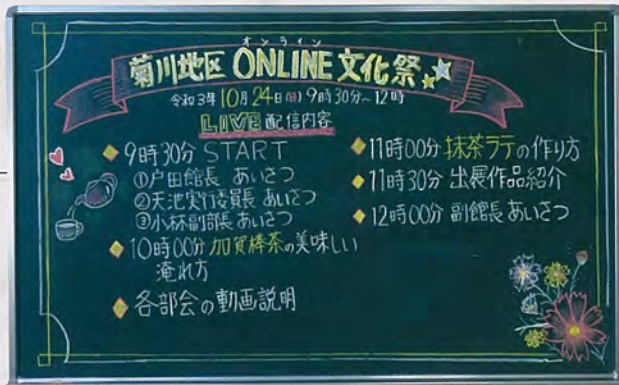
また、対面による活動を基本的な姿勢としながら、オンライン化も積極的に取り入れています。

ご協力ありがとうございます。

10月24日(日)

オンライン文化祭

史上初の試みです。ネット配信いたしました。



公民館2階から撮影し、リアルタイムでYoutube配信を行いました。1部は館長、主事の挨拶から始まり、文化部長&副部長のお話、まるで漫才を見てかのような楽しい会話でした。

2部は小林茶舗さんの美味しい加賀棒茶の淹れ方、家庭で簡単にできる抹茶ラテの作り方を習いました。

3部は1階和室から作品展示の紹介へと、初づくしのオンライン文化祭は大成功。多くの工夫、知恵が詰まった新しい形の文化祭となりました。

作品展示：1F和室にて



天池部長が撮影、小林副部長が作品を紹介しています。公民館で開催の教室と講座で作った作品です。

連日、大勢の方々のご来館くださり作品をご覧になりました。



館報菊川の歴史：昭和30年代から現在までを展示しました。懐かしい写真もありました。



フードドライブ活動

感謝!



今、社会問題となっているフードロス。

食べられる食材を廃棄処分してしまう問題です。菊川SDGsの取り組みの1つとして、ご家庭で余っている食材を提供いただき、福祉団体に寄付させていただきました。ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

「まだ食べられる」「もったいない」を意識し、ゴミの減量化について、また、食品の支援を必要としている方への手助けを地域で行う取り組みです。

10月15日(金)

パステルアート講座

講師：吉本 由紀氏



昨年度も開催。好評で今年も開催いたしました。
「思ったよりも簡単に作品が描けました」と皆さん笑顔でした。



10月16日(土)

切り絵講座

講師：森下 衛氏



毎年大人気ですぐにいっぱいになる切り絵講座。来年の干支は虎。顔の表情が難しいです。回を重ねるごとに少しずつ上手になってうれしいです。



11月1日(月)

い草のクリスマスリース講座

菊川SDGsの活動の1つとして、小松い草産材を活用したクリスマスリースづくりです。原主事の熱い思い。天然素材にこだわった材料を準備して下さりありがとうございます。



講師：瀧本 莫産店
辻 奈穂子氏

10月20日(水)

失敗しない 寄せ植え講座



講師：松下ガーデン職員



お花の丁寧な説明を聞いてよかったです。かわいらしく仕上がって大満足です。

10月9日(土) KIKUGAWA HISTORY

きくがわ土曜講座 菊川の歴史に学び 未来につなげる

菊川地区の歴史について
お話をいただきました。



講師：ボランティアガイドまいどさん 新田 龍人氏



住んでいる土地の生き生きとした
歴史エピソードを聞きこころがより好きになりました。

子供も一緒に参加できてよかった。
また参加したいです。



10月25日(月)・29日(金) スマートフォン・タブレットの使い方講座

講師：株式会社ジョイテル 川淵氏

大人気ですぐに定員に達し、
キャンセル待ちが続出の講座でした。



カメラの使い方がわかりうれ
しいです。もっと使えるよう
になって楽しみたいです。



みんなで 歩こうの会



前長谷館長
より川上芝居
小屋のお話い
ただきました。

10/16
嫁坂：本多町



嫁坂の歴史、娘
のお嫁入りのため
に作った坂道だっ
たんですねー。

9/25
犀川上流

小学生も参加、手には望遠鏡を
持ち犀川にいる野鳥を観察しな
がら歩きました。



オンラインで
3つの会場を
つなぎました。



10月11日(月)・11月7日(日) 地域安全マップづくり

講師：北陸大学経済経営学部
教授 山本啓一氏と学生さんたち

今年度はコロナの感染拡大防止を鑑み、参加者全体で作成
する方法とはらず、各自で「危険な場所」や「安全な場所」の
キーワードについて確認をし、地域や通学路を親子で歩きました。
アンケート作成、管理ソフト「Googleフォーム」やオンライン会議シ
ステム「ZOOM」を使って地域安全マップづくりを行いました。



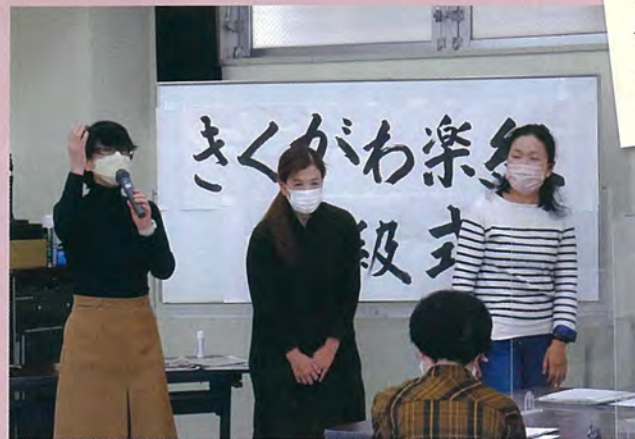
11月6日(土) 開級式 & 講演
SDGs(エスディーゼイズ)って何?

2部制で開講

延期続きとなっていた
きくがわ楽級をようやく
開級することができ
安心いたしました。
今年のテーマはSDGs。
楽しく学ぼう!



楽級長の
澤谷さん(真ん中)
島さん(右)



講師：国連大学サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット(OUIK)
事務局長 永井 三岐子 氏

開級式は、永井氏にSDGsって何?の講演からスタートです。ひとり一人の小さな行動の変化で金沢が変わる!



最近良く耳にするSDGsとは?

人が地球で暮らし続けていけるような世界をつくる17の目標のことです。講演の後、各班で話し合い、実践していることなどを発表いたしました。



参加者の声:

- ・金沢に国連の機関があると初めて知りました。金沢ってすごい街なんだ!
- ・菊川に住み続けている理由が、どの班も環境がいい、人がよく住みやすい、便利 etc 改めていいところに住んでいるなと安心しました。
- ・難しいことではなく、日々の暮らしの中で小さなことでも協力できると知りました。
- ・楽しい。美味しい。美しい。この3つを大事にすることで和が広がり続けられるって素敵なことですね。

11月5日(金)

学んでから旅する事前学習会



今年の研修旅行は福井県です。お隣の福井県は近くて遠い？知らないこともたくさんあります。

福井といえば恐竜ですが、戸田館長より歴史を学ぶ&発見の福井旅のお話をいただきました。

知らない福井。聞いたことない神社と遺跡。ワクワクと気持ちも盛り上がってきてます。

紙祖神
岡太神社・大瀧神社
福井県越前市
和紙の里
お札のふるさと



「日本一複雑な屋根をもつ神社」で国の重要文化財となっています。

11月14日(日)

日帰り研修 in 福井県

一乗谷 & 岡太神社・大瀧神社



「一乗谷朝倉氏遺跡復原町並」 特別史跡、特別名勝、重要文化財、国の三重指定

日本のポンペイと言われていて一乗谷。かつては多くの人々が暮らし栄えた街だったのに戦国時代の混乱で焼き尽くされ、その後は田んぼとなり地中に埋まった。昭和42年から発掘調査が始まり、土の中から出てきた膨大な数の遺跡群。出土品から再現した町並みが歴史を肌で感じる場所でした。(復元ではなく、あえて復原としているそうです)

地域安全マップの取り組みも3年目となり、和が広がっています。

令和3年11月9日(火)朝刊

地域安全マップ 担い手は公民館

犯罪が起きやすい場所を子どもが把握する「地域安全マップ」作りが、金沢市内各地で行われている。いずれも公民館が中心的な役割を担う。協力する北陸大の山本啓一教授（地域防犯）は「本来は子どもの防犯教育に限定されるが、まちづくりとの相乗効果が狙える取り組みになっている」と評価。「金沢モデル」として、さらなる波及に期待を寄せる。
(村松秀規)

「金沢モデル」子ども以外も恩恵



⑤ 学校周辺を調査し、危険が安全かを考える児童たち。金沢市内で（富樫公民館提供）⑥ スムでつながり、地域の調査結果を検証する地域住民ら。金沢市菊川町公民館で（同公民館提供）



専門家「まちづくりにつながる」

地域安全マップ作りは「危険な場所（入りやすく、見えにくい場所）」「安全な場所（入りにくく、見えやすい場所）」のキーワードを用いて子どもが地域の公園や路地などを調査し、危険かどうか

かを論理的に説明できるようにする取り組み。八日は、富樫小学校の四年生約七十人が十二班に分かれ、地域住民や山本教授のゼミ生らと学校周辺を調査。調べた場所が周囲の建物や道路から人の目が届きやすいかなどを確認し、写真を撮ったり、危険か安全かの説明を考えたりにして判断の仕方を学んだ。同校は本年度、四年生を対象に総合的な学習の時間で初めて実施。提案した富樫公民館は、調査時のコース決めや見守りの人員調

整で全面的に協力した。金野忠館長は「防犯スキルを身に付けた子どもは他学年の子や、将来自分の子どもにも伝えることができるようになる。裾野が広がっていいければ、今とは全く違う町になるかもしれない」と話す。一方、犀桜小学校の地域はマップ作りを始めて三年目。今年は、十月中に児童やその保護者らが各自で地域を調査し、アンケート作成・管理ソフト「ゲイゲルフォーム」に調べた場所の画像と安全か危険かを説明する文章を投稿した。七日には、主催の菊川町、新登町の各公民館の関係者や学生、子どもらがビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」でつながり、調査を検証。調査結果は山本ゼミが無料オンラインサービス上で地図にしてスムーズで共有した。六年生の女兒は「危険な場所ので気を付けるようになった」と振り返った。山本教授は「金沢の公民館はコミュニティの力が強く、多くの人を巻き込むことができるのが特徴。主体的にマップ作りに関わることで住民の当事者意識が高まり、地域の目が鋭くなる」と分析する。その上で「危険」の要因になっている空き家や伸び放題の雑草など地域が解決すべき課題にも目が向けられることで住みやすいまちづくりにもつながると説明した。

主催者のおもい

「住み続けたいまちづくり」には安心・安全は当然ですが、「まちづくり」の次の担い手育ても不可欠です。この活動の経験から学生や参加した子どもたちが「持続可能な地域づくりの『次の』担い手」となってくれることを期待しています。

■ 北陸大学 経済経営学部

菊川町での地域安全マップづくりでは、私たちでは発見できていない地域に住んでいる方、特有の情報を知ることができ、私たちにとっても良い学びになった。犀桜小学校での地域安全マップづくりは、非常に楽しかった。小学生にどうして危険な場所、安全な場所なのか判断したのかを聞いた後、共感、説明を行なった。窓が道の方に向いているから安全と思う小学生が多かった。もう少しわかりやすい説明が必要だと感じた。
徳本 凌太

地域安全マップ作りを通して、公民館の方や地域住民の方々々と触れ合う機会があったのはとてもいい経験になりました。今後も地域のボランティアなどに参加してみたいと思いました。
清水 悠貴

菊川地区も積極的に取り組んでいきましょう



2030年の金沢を想像すること。
いま何が問題になっているのか。
誰がなぜ困っているのか。

想像力のスイッチをONにすると、たくさんの気づきがあります。
そこから、子供たちに引き継ぐべき
2030年の金沢の姿を描いていきましょう。

金沢SDGsは市民全員が参加者です。
SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」を、
金沢から実践していきましょう。

きくがわSDGs

活力あるまちを手渡そう

SDGs(エスディーゼズ)のゴールへの近道は一人一人が「自分ゴト」として捉えほんの少し意識を変えるだけでその未来の姿が見えてきます。2030年の「きくがわ」、を想像したときみなさんは、どんな未来を想像しますか。子や孫にどんな地域を手渡すことができるでしょうか？自分には、何かできるのかを考え行動に移すことで未来を変えることが可能になります。子どもから高齢者までみんなが地域の中で活躍できる場があります。それは「住みつづけたいまちづくり」にもつながります。誰もが生きがいや、やりがいを感じることでできる活動を通じて元気で活力ある「きくがわ」のまちを次世代に手渡ししましょう。